

編集後記

原稿募集

「鉄と鋼」特集号

鉄鋼業における最近のセンサー技術

原稿締切日 平成 4 年 11 月 6 日 (金) 締切日厳守
締切日以降の投稿原稿は受け付けませんのでご注意ください

平成 5 年 7 月 (第 79 年第 7 号) に上記特集号を企画しております。最近の鉄鋼製造プロセスにおいては、多種多様なセンサーが用いられています。古くは温度計測から、寸法・形状、非破壊検査などの分野や最近ではオンライン \bar{r} 値センサーのような材質計測の分野にまでセンサーがオンラインで利用されています。さらに画像処理の機能も取り入れられています。本特集号ではこれら最新のセンサー技術を紹介し、鉄鋼の計測・制御技術の視点からこれらをとらえてインテリジェント化、複合化および無人化・自動化の今後の進展を展望したいと思います。論文、現場技術報告の両分野に多数御投稿下さいますことを期待しております。

1. 原稿締切日 平成 4 年 11 月 6 日 (金)
2. 発行 「鉄と鋼」 Vol. 79 No. 7 (平成 5 年 7 月号)
3. 原稿枚数 論文: 刷り上がり (表, 図, 写真を含めて) 7 ページ以内 (18000 字以内)

<平成 5 年 1 月号 (Vol. 79 No. 1) より「鉄と鋼」が B5 判から A4 判に変わります>

(注)・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。・投稿された論文は和文会誌分科会において審査されます。

4. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

(社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 和文誌特集号係 (担当・松井, 中村) 電話 03-3279-6021(代)

(注) 投稿時, 原稿表紙に「計測制御特集号」と朱書して下さい。

● 編集後記 ●

5 年ぶりに製鉄関係の特集号が出来上がりました。今回は会員の皆様方に絶大な御支援を賜り、質量ともに充実した特集号になりましたことを大変喜んでおります。誌面数の関係で一部の方の論文を一般号に掲載せざるを得なくなりましたことは、多くの御投稿をいただいたという点で有難いことではありますが、著者の方々には御迷惑をおかけいたすことになりました。御容赦の程お願い申し上げます。

さて、我が国の製鉄技術は昭和 30 年代以降、高度成長期における高生産操業、その後の低成長省エネルギー型操業を経て、現在の高効率環境意識型操業へと変遷しておりますが、新しく開発が進められているプロセスにもこの傾向がみられるように思われます。現在、高炉法においても微粉炭多量吹き込みを中心とした高生産、低エネルギー消費が追求され、開発が進められている熔融還元法も低エネルギー消費や CO₂ 排出量削減の方向が指定されている。御承知のように、製鉄法のような大型プロセスは一朝一夕にして完成されるものではなく、新しい着想がイメージされてから、

多くの研究者、技術者により、基礎的な要素研究が行われ、さらに開発研究、パイロットテスト等に長期間の地道な努力がなされた後やっと実用化されるという特性があります。

本特集号に含まれている論文や解説も、これらのいずれかの過程に当てはまると思います。今後とも会員の皆様方の御努力に期待したいと思います。

ところで、本特集号における大学からの投稿は全掲載論文 (含解説) 40 編のうち 8 編であり、決して多いとはいえ、さらに著者を調べてみますと、製鉄関連の研究が行われている大学の研究室が非常に少ないことに気がきます。製鉄技術のようなプロセス技術はたゆまぬ努力をしてこそ発展維持できるものであり、一度逆戻りを始めると体勢を立て直すことは非常に困難です。その意味で、再度、大学の製鉄研究を御支授いただき、将来の発展の基盤作りができますことを希望いたします。

(J. Y.)